

授業改善プラン

教科（ 国語 ）

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。改善策として ICT の活用を導入するものは**太字**

	観 点	1 学期	2 学期		3 学期	小中一貫の 取組
		今年度の取組 昨年度の課題から	分析	具体的な改善策	改善プランの評価 来年度に向けて	
1 年 生	知識・技能	・授業内で行う漢字の確認テストでの正答率が79%であった。 ・定期考査での得点率が76%であった。	・漢字の読み書きに関しては定着している生徒が多い一方、小学校の漢字が定着していない生徒もいる。 ・文法は文節、単語に分けるところまでは理解ができている生徒が多い。 ・簡単な語句を使う傾向がみられるので、今後語彙を増やす必要がある。	・復習を含め以前学んだ漢字、新出の音訓を含め漢字テストの実施をする。 ・文法の小テストを実施する。 ・語句の意味を Chromebook で調べる際に、類義語、対義語も調べるように指導する。		
	思考力・判断力 表現力	・定期考査での達成率が73%であった。 ・文章を書くことが好きな生徒が多い。 ・プリントに記入した際には、ペアまたはグループワークで他の生徒に読んでもらい、アドバイスしあった。	・自分の意見を表現することはできるが、文章を読み取って筆者の考えを捉えることに課題がある。 ・他の生徒の考え方や捉え方に触れることで、自分の考え方について深めることができた。	・構成を捉えること、どのような語句を探せばいいか学び、筆者の意見を捉えられるようにする。 ・自分の意見を具体的に表現できるように指導する。		
	主体的に学習に取り組む態度	・指示された課題に対して意欲的に取り組むことができる。 ・授業アンケートで、「自ら学びたいと感じた」と答える生徒の割合が3割程度であった。	・課題解決型の学習は生徒の主体性を引き出す上で効果的であった。 ・日常生活と学習内容の結び付けを意識させる機会が少なかった。	・日常生活と学習事項を関連付けた授業を展開する。 ・課題解決型学習を取り入れ、主体的に授業に参加できる環境をつくる。		
2 年 生	知識・技能	・漢字テスト正答率が67%であった。 ・定期考査の正答率が、50%だった。漢字の読み書きに関しては定着が図れていない。	・漢字の読み書きに関しては定着していない生徒が多い。簡単な漢字も平仮名で書いている。 ・文法は、動詞までの部分が終わっており、理解ができている生徒が多い。 ・簡単な語句を使う傾向がみられるので、今後語彙を増やす必要がある。	・文法事項、古文学習事項について適切な家庭学習課題を設定し、その取り組みを評価する。また、生徒相互の学び合いの時間を設定し、知識の定着を図る。		

授業改善プラン

教科（ 国語 ）

3 年 生	思考力・判断力 表現力	○「話す」活動において、根拠を基に説得力のあるスピーチを行った。 ●定期考査の正答率が57%であった。本文を根拠としない、思い込みによる解答が見られる。	○課題を精選したことで、生徒が丁寧に文章を読み進める姿が見られた。 ●生徒同士の意見の交流機会が少なかったため改善が必要である。	・1単位時間に取り組む課題を精選し、生徒が丁寧に本文を読み進められるよう留意する。また、生徒同士の意見を交流する場面を設定し、考えを広げ、深められるよう工夫する。	
	主体的に学習に取り組む態度	○学習の調整を行い、改善を図ろうとする姿が見られた。 ●授業アンケートで「自ら学びたい」と答える生徒の割合が7割程度であった。	○他の生徒の模範となる取り組みを共有したことは生徒の主体性を高める上で効果的であった。 ●日常生活と学習内容の結びつきを意識させる機会が少なかった。	・日常生活と学習内容を結び付けられるような授業を展開する。 ・他の生徒の模範となる取組については全体場で共有し、主体性につなげる。	
	知識・技能	○実力テストにおいて、漢字の読みや歴史的仮名遣いの問題で平均点を上回っている。小テスト80%、定期テスト64% ●漢字の書き取りの正答率に課題が見られる。	●漢字の書き取りに関して、改善は見られたが定着に至っていない。 ○漢字テストの定期的な実施については一定の成果が見られる。	・書き取りを中心とした漢字テストを定期的実施する。 ・文字を書く活動を多く取り入れ、漢字を書く機会を増やす。	
	思考力・判断力 表現力	○古典問題・課題作文・説明的文章の読解で受験者平均を上回った。 ●文学的文章の読解の正答率が受験者平均であり、改善を図る必要がある。定期テスト62%	○文学的文章の読解について改善が見られた。 ●説明的文章の読解の正答率が減少傾向のため、改善が必要である。	・文学的文章の取り扱いを増やし、読み方のポイントを全体で再確認する。 ・文章読解の実践機会を増やし、読み方を定着させる。	
	主体的に学習に取り組む態度	○指示された活動に意欲的に取り組み、他者と共有することができる。 ●授業アンケートで「自ら学びたい」と答える生徒の割合が4割程度であった。	○古典の学習に関して、教材の選定や授業の工夫を重点的に行うことができた。 ●日常生活と学習内容の結びつきを意識させる機会が少なかった。	・日常生活と学習内容を結び付けられるような授業を展開する。特に古典学習においては、高校での学習につながるよう、教材や展開の工夫を重点的に行う。	

カリキュラムマネジメントの視点から

・小学校段階の学習内容を確認できた。2学期は確認内容を踏まえた授業を計画し、実施する。